



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

友達になろう

BE A FRIEND



佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日 (12:30~13:30)

例会場 ホテル神宮寺 TEL 0985-73-0015

※事務所 〒880-02 佐土原町大字下田島9883番地1
TEL 0985-73-0015

ロータリー雑誌月間

1995. 4. 14 (金) 第359回例会

1. 点 鐘
2. ロータリーソング「奉仕の理想」
3. 食 事
4. 会長の時間
5. 幹事報告
6. 各委員会報告
7. 会員卓話
8. 点 鐘

第358回例会記録

(1995. 4. 7)

会長の時間 池田仁志

皆さん今日は、本日は第358回例会です。
前週の観桜例会に際しましては、照明まで万端の準備をしていただき、満開の夜桜を全員で楽しみ、懇親の輪を広げることができました。
重ねて親睦委員会の皆さんに深く感謝申し上げます。

さて、早くも4月に入り、私どもの任期もあと3か月となりました。会員30人突破を目指し、全力を尽くしたいと思います。

皆さんのご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

幹事報告 藤堂孝一

例会変更通知

* 都城中央RC 4月13日 18:30

ニューグランドホテルガーデン

* 都城RC 4月21日 12:30

九州電力(株) 都城営業所

出席報告 委員長 神宮寺 利夫

会 員 数	25名
欠 席 者 数	2名
H C 出席者数	23名
出 席 率	92%
欠 席 者 名	井下・垂水

本日のビジター

宮崎北RC 岡本英敬君

西都RC 吉鷹司郎君

” 小倉敦男君

” 河野謙二君

児玉副会長より

1. 4月5日に西都原古墳公園で開催された宮崎北RC観桜会に、池田会長の代理で、藤堂幹事と出席しました。

2. 宮崎南RC創立20周年記念式典に、同じく藤堂幹事と出席しました。

宮崎南RCを退会された方も招待されていましたが、好印象を受けました。

会員増強委員会より 委員長 正岡文都

前回ご報告いたしました入会ご希望の方のうち、梶田與之助君が本日までご出席くださいましたので、ただいまから入会式を行います。

池田会長より佐土原RCバッジを梶田君に装着し、全会員が拍手で祝福しました。

事務局 ☎880-03宮崎県宮崎郡佐土原町大字西上那珂5632 (有) 藤堂産業内 ☎0985-74-2575

会長 池田仁志・副会長 児玉武文・幹事 藤堂孝一・会計 大野高志・会報責任者 垂水敏雄

新入会員の略歴ご紹介

梶田 與之助 君

昭和14年11月28日生

住所 佐土原町大字上田島1595-2

学歴 宮崎県立大淀高等学校卒業

職業 梶田種苗店社長

家族 ご夫人 ご長男夫妻・子供さん

会員卓話 宮原 建樹

私ども燃料屋にとって冬は大変忙しく、その反動（季節がら）で、夏の売り上げは当然ながら半分は落ち込みます。特に石油もガスも扱っておりますので、なおさらです。

冬はガスでお茶も、湯沸器も、温かい料理も作り、風呂も長めに入ります。

ところが夏は、お茶は冷たいものが好まれ、料理も手のこんだものはやめて、冷たい簡単な種類になります。また、風呂も太陽ヒーターがあるし、シャワーで簡単に済ませます。

従って、冬の半分しか夏の売り上げはないということになり、そこで最近発売になったのがガス・ヒートポンプ（GHP）という、ガスを燃やして冷房・暖房にする空調機であります。

冬はガスを燃やして暖房し、夏はガスを燃やして、そのエネルギーでコンプレッサーを動かして冷やすというものです。

現在はインシャルコスト（本体）はまだ電気のお2倍ほどですが、ランニングコスト（月々のガス代）はガス料金表を業務用としますので、電気料よりずっと安くなると思います。

事務所移転や工場を新しくする場合など、是非声を掛けてもらい参考にさせていただくとありがたいのですが、本題に在る前にP、Rさせていただきますましてすみませんでした。

本題に入らせていただきますが、これも石油の話で申し訳ございません。

時間がありませんので、石油の歴史を簡単に話させていただきます。石油の歴史はどのくらいかといいますと、モータリゼーションが始まったここ30～40年、米国でも100年くらいと思いがちですが、その歴史は以外と古く、

紀元前3千年ぐらいに、イラク流れるチグリスとユーフラテス両河川の流域メソポタミアは、人類文明発祥の地の一つと言われていますが、その地域のスルメ人達は接着剤として石油アスファルトを用いていました。

その他の古代文明においても、石油は防腐剤、防水剤、灯火・炊事、医薬などに用いられていました。遺跡などに、石油を接着剤として使い、ミイラの防腐剤、防水剤などにも使った跡があるそうです。

日本では668年、越後の国（今の新潟県）から天智天皇に、燃える土・燃える水を献上したという記録があります。

新潟や秋田地方では、臭水（くそうず、草生水とも書く）という地名が示すように、石油の自噴が古くから知られており、灯火や炊事にも用いられていました。

このように利用例は多方面にわたっていますが、いずれも自然に湧いてきた石油を利用したものでした。

19世紀に入ると、自噴する石油だけでは足りなくなりました。

1859年、米国の掘削技師ドレークは石油を探るために井戸を掘り、1日当たり20バレルの石油の生産に成功しました。

これが、井戸で石油を採り、精製した石油製品、灯油を販売する産業、すなわち近代的石油産業の始まりです。

たちまちのうちに同業者が急増し、石油からの灯油は、石炭からの灯油を市場から駆逐しました。

米国の灯油は欧州などへも輸出されるようになり、初めから米国は石油産業の指導的地位に就いたのです。

得意泰然、失意淡然

わが意を得たときには有頂天ならず、望みどおりにいかないときにも過度に落ち込まない。自分の喜怒哀楽を他人に押し付けたい生き方をしたいものである。